

ホームページ



http://uchida-ta
motsu.jimdo.com

南知多民報

発行：日本共産党
南知多町委員会
連絡先：町議会議員 内田保
南知多町内海内塩田77-3
(TEL・FAX: 0569-62-1816)



6月議会は、24日に5人の一般質問がありました。日本共産党の内田たもつ議員は、①学校規模の適正化について、広く町民の意見を聞く機会を②再生エネルギー発電施設における適切なガイドラインの運用と条例制定③両島民の海上交通の利便性の改善④県一高い国保税の均等割減額の4点について、質問・要請をし、当局の姿勢をたどしました。



学校規模の適正化について 広く町民の意見を聞く機会を

問 保護者アンケートを実施しているが、地域住民・教職員のアンケートも必要ではないか。

答 教育部長

学校現場に最も係わりの深い町内の小中学校の教員からもアンケートにより、学校規模の適正化についてご意見をお聞きする計画である。



問 11月からの保護者意見交換会には、地域住民の方の意見も聴く機会とすべきと考えるが、予定しているのか。

答 教育部長

地域住民の方々には学校の「地域の拠点機能」を踏まえアンケート結果をお知らせしてご意見を伺う予定である。

問 現在の南知多町は、20人・30人規模の学級で最適な教育条件である。もし統合した場合、国の示す40人学級でなく、20人学級もしくは30人学級を町として維持する考えはあるか。

答 教育部長

南知多町教育委員会としては、県の基準に従い、町内の小中学校の学級編成をしている。仮に統合する場合でも、町として、独自財源を捻出して教員を採用し、少人数学級を維持する考えはない。

再生エネルギー発電 適切なガイドラインの運用と条例制定を

問 大井浜辺付近で計画されている風力発電計画に、町として事故処理や発電終了時の撤去責任を明確にする覚え書きを交わす必要があるのではないか。

答 厚生部長

町の風力発電ガイドライン及び資源エネルギー庁の事業計画策定ガイドラインにより指導・助言等を行い、場合によっては、国から指導をしてもらうように通報することを考えている。今のところ事業者と覚え書きを交わすことは考えていない。

問 ガイドラインでなく、景観保全条項を含む条例の検討はされているか。

答 厚生部長

風力発電については、美浜町で条例制定の直接請求があった。条例制定は、経済自由権の制限もあり、上位法の根拠が妥当であり、今後も近隣市町の動向を注視し、検討する。



船代の割引券の増数を 両島民の海上交通の利便性のために

問 高齢者等の通院補助のために、船代の割引券、今の16枚をもっと増やす考えはないか。

答 企画部長

県へ補助拡充を要望している。高齢者の通院補助のために割引券を増やすことは町として考えていない。



問 知的・身体障がい者と同じように精神障がい者の半額補助を名鉄海上観光船と交渉する必要があるのではないか。

答 厚生部長

精神障がい者は、半額の運賃割引の適用がなされていない。町として、平成29年の「地域公共交通活性化・再生協議会」で、適用されるよう依頼した。引き続き、割引が適用されるよう働きかけをしていく。

問 運賃引き下げ等の交渉をしてきたのか。

答 企画部長

近年は、毎年、篠島・日間賀島・師崎の町議会議員と区長及び町長、副町長同席のもと、離島航路について意見交換会を開催している。

南知多町も大府市に続き、 小中学生までの国保税均等割の減額を

問 全国知事会も要請しているように、赤ちゃんまで税金をとるのでなく、大府市のように減額を検討すべきではないか。

答 厚生部長

今のところ大府市のような小中学生までの子どもを対象とした均等割の減額は考えていない。

《一般質問を終えて》

今回の議会を終えて、議員として2年間、8回の議会を経験しました。議会が一番聞いたことは、あまりにも議論されないことです。

一般質問や発言をするためには、議案や提案を読み調査したり、日頃から町民の声を聴いたり、分からないことは役場に問い合わせたりして、準備は大変です。もちろん議員の仕事は議会での発言だけではなく、町民の代表として、議会で発言することは重要な仕事です。

これから、「意義なし」の声ばかり響く議会ではなく、賛成でも反対でもしっかりと議論する議会をつくっていきたく思います。

＜2年間の一般質問の回数＞

石黒充明	0回
鈴木浩二	1回
松本保	1回
石垣菊蔵	2回
小嶋完作	3回
吉原一治	3回
山本優作	4回
片山陽市	5回
服部光男	7回
榎戸陵友	8回
内田保	8回
藤井満久	0回(議長)

「あったことをなかつたことにはできない。公平である政が歪められている。加計学園獣医学部新設で安倍首相の意向があった」と勇気ある発言をした前川喜平元文部科学事務次官は、今は全国各地での講演の講師に引っぱりだこの講演でも見られるので、いくつ前川さんの講演を見た。官僚にもこんな心ある人がいるのかと勇気づけられる▼しかし、最近の政府の惨憺たる状況には唖然とする。ごまかし、隠ぺい、時の政府や安倍首相への忖度が、相も変わらずはびこっている▼「公的年金では老後2000万円不足」という金融庁の審議会がまとめた報告書を、麻生財務大臣は「政府の政策スタンスと違う」と受け取り拒否。「不都合な真実」を隠ぺいする安倍政権▼最近どこに行ってもこの話題で盛り上がる。年寄りには「まじめに働いてきて泥を塗られた気がする」「娘や息子が将来、年金がもらえないのではないかと心配」若者は「もう政府は信用できない。自分で貯金しなくては」と焦るがそんな余裕はない▼「100年安心年金」と言った政府、許せません。全国で市民と野党の共闘が進んでいます。こんな国民を蔑ろにして安倍政治を終わりにしよう。

たもつ日記

